

成蹊中学・高等学校

国際交流プログラム



成蹊中高国際教育部
2023 年度版

△ 長期留学 1年あるいは1年以上で単位を認定するもの

① セント=ポールズ=スクール (St. Paul's School, SPS)

高1～（応募時中3以上）

アメリカ <https://www.sps.edu/>

2023年度募集予定です。

アメリカ合衆国、ニューハンプシャー州にある世界屈指の全寮制プレップスクールで、いわゆるテンスchoolsのひとつ。ケリー元国務長官、ムラー特別検察官らを輩出。成蹊からの最初の留学生は榎原稔氏（三菱商事元社長・会長）。成蹊生用ファンドで留学。2019年に交流70周年を迎えました。卒業生の多くは世界トップクラスの大学に進学します。



留学期間	募集翌年の9月～（成蹊を退学して留学し、多くの場合は同校を卒業しますが復学も可能。基本的に1年のプログラムですが、SPS卒業には2年以上の在学が必要です）
費用概算	留学1年目の学費、寮費等（年額約62,000ドル）のほとんどは奨学金としてセントポールズが負担（2年目以降は自費）、三菱奨学金対象（応募要件あり）。
募集人数	毎年1名

② チョート=ローズマリー=ホール (Choate Rosemary Hall)

高1～（応募時中3以上）

アメリカ <https://www.choate.edu/index.cfm>

2023年度募集予定です。

コネチカット州フリンクフォードにある寮生および通学生からなる伝統校で、SPS同様、広大な敷地を誇る全米テンスchoolsの一つ。J.F.ケネディ大統領やマイケル=ダグラスの出身校として有名。2016年、日本から村田奨学生派遣が始まりました。



留学期間	募集翌年の9月～（成蹊を退学して留学）。留学期間はチョートに申請し、審査の上で延長可能。
費用概算	年額約68,000ドル。村田奨学生は、留学1年目の学費、寮費が免除（2年目以降は自費）。三菱奨学金対象（応募要件あり）。
募集人数	毎年1名

③ カウラ=ハイスクール (Cowra High School)

高1～（応募時中3以上）

オーストラリア <https://cowra-h.schools.nsw.gov.au/> 2023年度募集予定です。

ニューサウスウェールズ州カウラ市にある公立校。カウラ郊外には第2次世界大戦中に捕虜収容所があり、そこで痛ましい日本兵捕虜の集団脱走事件（1944年8月5日未明）がありました。戦後、カウラ市長の提案を受けて、成蹊高校との間に日豪の和解と友好のための高校生交換留学プログラムが発足しました。2020年に50周年を迎えました。



留学期間	募集翌年の3月末か4月～3月（1年後に成蹊に復学）
費用概算	留学中の諸費用はカウラ側が負担。三菱奨学金対象（応募要件あり）。成蹊の学費減免あり。
募集人数	毎年1名

B ターム留学 (1 学期間)

ターム留学

2023年度募集予定です。

高1、高2

カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカのいずれか

2022 年度から開始した新規プログラムです。3 学期 (1 月～3 月) に、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカのいずれかの国に留学します。現地到着後、2 週間程度語学研修を行い、その後は現地の高校に通います。2022 年度の派遣先はカナダでした。2023 年度もカナダを予定しています。

留学期間	1 月～3 月
費用概算	約 160 万円。成蹊の学費減免あり。 助成金支給の可能性あり。
募集人数	20 名程度
募集時期/選考/事前指導	1 学期中に案内、選考を行う。



C 短期留学 (2週間～)

① ケンブリッジ大学 (Cambridge University) 夏期短期留学

高1～高3

イギリス <http://www.pem.cam.ac.uk/> 2023年度募集予定です。

ケンブリッジ大のカレッジでも3番目に古いペンブルック=カレッジ (Pembroke College) が運営するサマースクール (約3 週間) で、英語学習のほか、英国の社会・文化・建築を中心とした視覚芸術などを学習します。同大の大学生・大学院生が PA (Programme Assistants) として同カレッジの宿舎に同宿し、本物のカレッジライフを体験します。数々のレクリエーションや遠足を含みます。

留学 期間	7 月中旬～8 月上旬 (3 週間)
費用概算	約 110 万円 (条件により奨学金あり)
募集人数	25～29 名
募集時期/選考/事前指導	4月に募集、書類選考 事前指導あり



街全体が博物館のようなケンブリッジは、歩くだけでも歴史的建造物に次々出会います。建築、美術の先生から講義をうけながら町を歩き、作品鑑賞することも、生きた勉強になるでしょう。多くの参加者にとって一番心に残るのは、PA たちとの交流のようです。

② カウラ高校 (Cowra High School) 夏期短期留学 (隔年実施)

中3

高1

オーストラリア <https://cowra-h.schools.nsw.gov.au/>

2023年度は実施しません。

交換留学制度を通じて日豪友好親善関係の一翼を担ってきたカウラ高校との間に、2003 年夏 (現地は冬) から始まった短期留学制度 (約 20 日間) です。ホームステイでカウラ市民と交流しながら学ぶことに大きな意義があります。遠足および帰国前にシドニー観光もプログラムに含まれます。

留学期間	8 月上旬～下旬 (20 日間)
費用概算	約 39 万円 (2019 年度実績)
募集人数	16 名
募集時期/選考/事前指導	4月に募集、書類選考 事前指導あり



③ カリフォルニア大学デービス校（UCD）春期短期留学

中3

高1～高3

アメリカ <https://www.ucdavis.edu/>

2023年度募集予定です。

2014年春から始まった「英語でキャリア」プログラムです。Davisは町の人口のほとんどがUCD関係者で占められる大学町です。原則として2人1組でホームステイをしながら平日はUCDに通い、自己の将来の夢を見つめ、それを表明するプレゼン力を鍛えます。途中、デービス高校生との交流やスタンフォード大学やヴェンチャー企業訪問、ボランティア活動なども盛り込んだプログラムで、最終日には一人ひとりのプレゼンがあります。成蹊からの引率は付きません。



留学期間	3月下旬～4月上旬（2週間）
費用概算	約85万円
募集人数	20～35名程度（最少催行人数20名）
募集時期/選考/事前指導	2学期に募集、事前指導あり

④ 北欧夏期短期留学

（隔年実施） 2023年度募集予定です。

高1～高3

デンマーク <https://rungsted-gym.dk/>

スウェーデン <https://cis.se/>

デンマークの首都コペンハーゲン郊外の私立伝統校ルンステッド高校と、スウェーデンの古都カルマル市にある私立の新設校カルマーレ国際高校を夏休み末に訪問するホームステイプログラム。両校で日本語を学ぶ生徒を成蹊中高で受け入れた交流が相互訪問になりました。



留学期間	8月中旬～8月下旬（13日）
費用概算	約61万円
募集人数	18名（最少催行人数12名）
募集時期/選考/事前指導	4月に募集、校内選考、事前指導

⑤ チョート=ローズマリー=ホール校

中3（応募時中2）

高1～高2（応募時中3～高1）

（Choate Rosemary Hall）サマースクール

アメリカ <https://www.choate.edu/>

2023年度派遣予定です。

2015年から始まったプログラム。参加者は1学期末の成蹊中高での授業と期末試験は公次扱いとします。村田奨学生が約3名選ばれますが、自費での参加が許可となる場合もあります。成蹊生はESLコースを選択できないため、授業に即参加できるレベルの英語力が必須です。成蹊からの引率は付きません。



留学期間	夏期2・4・5週間のコースから選択
費用概算	\$10,275（通常の5週間コースの場合）。村田奨学生は全額免除
募集人数	数名

⑥ フィリップス=エクセター=アカデミー校 (Phillips Exeter Academy) サマースクール

中3(応募時中2)

高1～高2(応募時中3～高1)

アメリカ <https://www.exeter.edu/>

2023年度派遣予定です。

テンスクールの最高峰に位置する伝統校で、『ダヴィンチコード』のダン=ブラウンや Facebook 創設者のマーク=ザッカーバーグ、数学者望月新一氏らを輩出。2015 年秋に同校の理事長と日本語担当教諭が成蹊を訪問、2016 年の6月に同校サマースクール生7名、2学期にはターム生5名を成蹊が受け入れました。2016年から同校サマースクールへの成蹊奨学生への派遣が始まりました。コースは100以上で多岐にわたりますが、派遣時に高1以上であれば、英語力増強のためのESLコースを選択することもできます。成蹊からの引率は付きません。



留学期間	7月上旬～8月上旬(5週間)
費用概算	寮費・学費(\$10,166)は全額免除(成蹊奨学生)
募集人数	数名

⑦ イーグルブルック・スクール (Eaglebrook School)

グローバル・リーダーシップ・プログラム

中2～中3

アメリカ <https://www.eaglebrook.org/> 2023年度募集予定です。

マサチューセッツ州ディアフィールド市にある名門全寮制男子中学校が実施するアジアの中学生向けの2週間プログラム。日本では成蹊・開成・早稲田・慶應などの生徒対象。普段は男子校ながら、通常のサマースクール(米国内および世界各国から参加する7月プログラム)は女子生徒も多数参加し、日本の夏休みに入ってから行われるこのプログラムも男女共学で実施されます。生徒3名につき1名の割合で教員がついて指導にあたります。ハーヴァード大学・MIT 訪問やキャンプなどの校外学習もあり、英語でのプレゼンが課されます。成蹊からの引率はつきません。



留学期間	8月上旬～中旬(2週間)
費用概算	\$5,250(寮費、学費、空港・学校間移動費)※航空券、旅行保険を除く
募集人数	全体で50名ほど
募集時期/選考/事前指導	4月応募締切、事前指導なし

D 国内プログラム

Global Studies Program 校内

中3

高1～高3

2023年度実施予定です。

通学型「校内留学」プログラム。生徒6～7名に1名の外国人大学生・大学院生がグループリーダーとしてつき、すべて英語でディスカッションを行います。外国人大学生は全員、海外大学在籍または国内有名大学に留学中の大学生です。ディスカッションを通して自分の持つスキルや才能、強みに気づきます。最終日にはプログラムの集大成として、英語でひとりひとりプレゼンテーションをします。





実施期間	7月中旬(5日間)
費用概算	59,000円
募集人数	30名以上
募集時期	4月上旬に説明会。4月中旬に募集

イングリッシュ・シャワー・プログラム

校外

2023年度実施予定です。

中1

中学1年の希望者を対象とした、二日間にわたり英語漬けの体験をする課外プログラム。飯田橋のブリティッシュ・カウンスル東京で行います。日本と英国の学校、文化の違いや表現の違いなどを学びます。

実施期間	2月初め
費用概算	1万円程度



基礎・中級 TOEFL /IELTS 講座

校内

2023年度実施予定です。

中2～中3

高1～高3

留学専門予備校のトフルゼミナール留学センターの日本人とネイティブスピーカーの講師がTOEFL/IELTSの傾向に応じて指導します。在学中あるいは大学入学後に海外留学を考えている生徒やSPSへの出願を考えている生徒、また英語力を上げたいと考えている生徒が、TOEFL/IELTSの対策を通して4技能を伸ばすことを目的としています。

実施期間	5月～6月の授業期間(全10回)
費用概算	約45,000円(受講者数により若干変動します)
募集人数	各クラス20名程度

E 校内の国際交流

成蹊では海外への送り出しだけではなく、様々な国からの短期・長期の留学生を常時受け入れており、授業、クラブ体験、イベントを成蹊生と共にしています。成蹊の校内にいてもさまざまなレベルの国際的交流の機会があります。



<長期(一年間)留学生の受け入れ>

オーストラリアのカウラ高校、カウラジュニア(元カウラからの留学生の子供)、アメリカのセントポールズ校、AFS、YFU財団を通して世界中から毎年数名の留学生を受け入れています。

<短期留学生の受け入れ>

アメリカのフィリップス=エクセター=アカデミーからターム生として秋に3か月間、留学生

を受け入れています。ターム生は成蹊の生徒のために、海外大学進学のSAT/ACTレクチャーやチャットルームを開くこともあります。またカウラ高校、スウェーデンのカルマール高校、デンマークのルンステッド高校等の生徒が定期的に来校しています。

<ホストファミリー大募集!>

さまざまな国から親元を離れて日本にやってくる留学生のホストファミリー。ご家族の皆様にとっても、彼ら・彼女らの親代わりとして、そしてホストブラザー、ホストシスターにも生涯忘れることのできない貴重な体験が待っています。ご応募をお待ちしております。



成蹊の国際理解教育の特徴

Q. 成蹊の国際理解教育の強みは何でしょう。

本格的な海外経験のできるプログラム群が幅広くあることです。英語に相当自信のある人にも、はじめて海外に行く人にも挑戦できるプログラムがあり、語学研修から、文化や人々に触れ、各国の優秀な若者達と深く学び合うところまで、各人の状況、語学力、目的に応じた経験を積むことができます。奨学金付きのプログラムもあります。思い立ってすぐ応募できるものと、英語資格や成績等が求められ、長い準備期間が必要なものがありますので、関心がある方は説明会等で早めに情報を集めて計画を立てるとよいですね。

Q. 交流している海外の学校が多いですね。

アメリカのセント＝ポールズ校とは2019年で70周年、**オーストラリア**のカウラ校とは2020年で50周年を迎えるなど、長い交流の歴史を重ねてきました。**テンスクールズ**と呼ばれる北米の**名門ボーディングスクール***10校のうち、3校と協定を結んでいることも特筆すべき点でしょう。近年は北欧の**デンマーク**や**スウェーデン**、アジアへと交流の輪が広がっています。

* ボーディングスクール (Boarding School) は全寮制の寄宿学校。現在テンスクールズでは次世代のリーダーとなるべき若者が、全米のみならず世界各地から入学しています。成蹊は**セント＝ポールズ校**、**フィリップス＝エクセター＝アカデミー校**、**チャート＝ローズマリー＝ホール校**と協定を結んでいます。

Q. 海外から成蹊にも、いつも留学生が来ているのですか。

人数は年によって多少上下しますが、高校では、協定校や財団からの長期留学生が常時2～3人以上、また季節ごとに短期やタームの留学生のグループが成蹊を訪れ、生徒の家庭にホームステイし、クラスに入り、一緒にクラブ活動をしてながら在校生と友情を育んでいます。彼等を迎えるため、ホストバディ、クラスバディや、有志生徒による団体インターナショナル・アライアンスが、在校生と留学生の架け橋となって活躍しています。**どの在學生にも国境を越えた心のふれあいの機会が日常的に存在するところに、大きな意味があるといえます。**



Q. 進路についてはどうでしょう。海外経験を積んだ生徒達は国内大学の国際系学科や海外大学を目指すのですか。

長期留学後に、**国際系学科**へ行く生徒は相当数います。他方、**国内の難関国公立大、理系学部、医学部に進学するなど、進学先は多様です。**ブランクを埋める苦労はありますが、長期留学から帰国した生徒が理系進学コースを選ぶことはできます。また**海外の大学への進学は半世紀以上にわたってコンスタントに出ています。**少し前までは、その大半が帰国生でしたが、近年は日本で初等教育を受けて、中高から海外の大学へ進学する生徒がでました。海外大を選択肢とする生徒が増えてきたため、**特別講座や一対一で指導・アドバイスを受けられるようにするなど、海外進学も視野に入れた学習支援環境の充実を図っています。**

成蹊の国際教育の特徴

- 1) 分厚い伝統と、豊富なプログラム群
- 2) 国境を越えた人々との交流から学ぶ「ほんもの」の国際理解教育
- 3) 進路・志望を限定することなく、深い国際経験を積むことが可能
- 4) 海外で学ぶための手厚い学習支援環境

＜海外で学ぶための学習支援環境＞



米国大使館の留学説明会で講演をするライト先生

アカデミック・アドバイザー

成蹊中高には、各種留学プログラム参加者や海外大学志望者を支援するアカデミック・アドバイザー専任の教員がおり、海外で学ぶための準備講座を開講する他、個人指導としては出願校の選択、学習計画、エッセイ等出願書類作成等のサポートを行っています。

担当の**マシュー＝ライト先生**は、アメリカのコーネル大（政治学および東アジア研究）、中国留学、ヴァンダービルト大学院（教育経営学）を経て、和歌山県の教員生活（ジェットプログラム）、米大使館や企業でのコンサルタントを手がけてきました。現在は、豊富な経験と堪能な語学力を生かして、多くの生徒の留学支援をしています。

海外で学ぶための準備講座

2023年度実施予定です。

海外プログラムの参加者や海外大志望者のためのライト先生による特別講座

アカデミック・スキル講座 留学プログラムの前に、英語で授業を受けるためのスキルをつけるための講座

上級 TOEFL 講座 海外大学等に応募する際に必要とされる TOEFL ハイスコアを狙うための講座

SAT 講座 米国大学の学科試験である SAT の準備講座。

SAT は日本の国際系学科の選考や、米国大学の短期プログラムの選考でも使うことがあります。

ライティング・チューター

対面のほか、オンライン・セッションも可能です。

海外大学や日本のいくつかのグローバル系大学へ進学する際には、英語で学術的な文章を書く力が求められます。そのための個別サポートをライティング・ラボで受けられます。よい文章にするためにどうすればよいか、自分で気づけるようになるためのセッションを行っています。

ライティング・チューターの**田中ジョン直人さん**は成蹊高等学校卒業後、カルフォルニア大学デービス校に進学。現在は、東京藝術大学講師として「アカデミック・ライティング」を教えながら、本校の海外進学希望者や日本の大学の国際系学科志望者を支援しています。



ライティング・センターと成蹊ライティング・ラボ

ライティング・センターは、多くの米国大学に設置され、日本の大学にも広がりつつありますが、中等教育ではいまだ馴染のない存在でしょう。その基本方針は、添削指導ではなく、一対一の対話を通して書き手の文章を検討し、書き手の意図を尊重しながらよりよい書き手を育てていくことにあります。成蹊高校では、日本のライティング・センターの草分けといえる早稲田大学ライティング・センターの指導と助言を仰ぎつつ、2018年度よりライティング・ラボを進路指導室に設置しました。